

尼崎アスベスト訴訟

▶ 新たに2遺族がクボタと国に賠償求めて訴え

元従業員、周辺住民あわせて死亡者320人に上るクボタのアスベスト被害発覚から4年となるなか、アスベスト関連の作業に従事し、死亡したクボタの下請け運送業者の男性の遺族が7月21日、同社と国に4,600万円の損害賠償を求めて神戸地裁に訴えた。石綿暴露が死亡原因として労災認定はされたものの、クボタでの勤務が確認できず、下請けを救済する制度はないとされたことから、予見義務、安全配慮義務違反、国の監督不行使、立法不作為を主張している。

さらに、尼崎市内の鉄工所で石綿を扱っていて肺がんで死亡した男性の遺族も国に6,700万円の損害賠償を求めて訴えた。

国の不作為責任と加害企業を訴えている全国唯一の「尼崎アスベスト訴訟」は裁判中の原告とあわせて4遺族9人となった。

▶ 実態解明に背を向けるクボタと国を批判 - 口頭弁論

6月12日の第11回口頭弁論は神戸地裁大法廷に90人の支援者が傍聴。弁護団は、おびたしい被害の現実に対し4年たつてもクボタや国は、アスベスト飛散の事実、防止対策、厚労省検証の元資料である尼崎労基署の指導記録の開示、被害の実態など何ひとつ情報を明らかにしていないとし、被害に対する認識や、全国規模の被害の実態調査など、真相解明に背を向け続けていることを厳しく指摘し、情報開示を強く要請した。

つづいて、7月10日の第12回口頭弁論では第8準備書面を提出。「証拠」を隠し続けるクボタや、資料提出に応じない国に対し、①これまでに提出されているクボタや尼崎労基署の監督指導経過をもとに、クボタ旧神崎工場から飛散していたこと、②近隣住民8人の証言からもアスベストが周辺住民に達していたこと、③クボタ旧神崎工場のアスベスト飛散についての車谷典男、熊谷信二両氏の「疫学論文」を示して、飛散の事実を指摘し、責任を追及した。雨の中90人が傍聴にかけつめた。

次回口頭弁論ではこれら原告の追及に対するクボタと国側の対応が注目される。次回は10月23日、午後2時から同地裁で。



裁判所に向かう原告と支援者

健康情報テレホンサービス

< 8月のテーマ >

通話料無料 (0120) 979-451

- 月曜日 肝炎ウィルスキャリアの妊娠・出産
- 火曜日 睡眠時無呼吸症候群の歯科治療
- 水曜日 糖尿病の早期発見・治療
- 木曜日 急に起こる血便
- 金土日 とびひ(伝染性膿痂疹)

※テレホンサービスは、協会ホームページでもご覧いただけます。既放送分も掲載しています。

<http://www.hhk.jp/>

兵庫県保険医協会

尼崎支部ニュース

301号

2009年8月5日付

〒660-0055 尼崎市稲葉元町2-11-10 八木クリニック内
兵庫県保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011

尼崎支部総会記念シンポジウムを開催 地域の公的病院の役割を考える

尼崎支部は、7月18日に第38回支部総会を開催。記念企画として催した市民公開シンポジウム「医療崩壊からの脱出～公的病院が地域医療に果たすべき役割」に、医師・歯科医師、一般市民など92人が参加した。シンポジストに邊見公雄赤穂市民病院名誉院長・全国自治体病院協議会会長、高原周治尼崎市医師会長、松本強合志病院副院長、綿谷茂樹副支部長の4人を迎え、西原弘道支部幹事がコーディネーターを務めた。

冒頭の八木秀満支部長の挨拶の後、シンポジストが順に医療崩壊について話題提供。

邊見先生は、「過度の抑制は質の低下を招く」として、低医療費政策を批判。「日本が世界に誇れるものは、憲法9条と国民皆保険」であり、グローバル＝アメリカンスタンダードが跋扈するなか、「医療と教育はジャパニーズスタンダードで良い」と主張した。その他、赤穂市民病院の取り組みとして、患者会をはじめとした患者参加や多くのボランティアのかかわりなど、市民の

市民による市民のための病院づくりを紹介。財務省、厚労省主導の現在の日本の医療を、患者、病院主導の医療に変えていかねばならないと力説した。

高原先生は、医師会長としての立場から、県立尼崎病院と県立塚口病院の統合再編問題について、統合再編検討委員会での模様を紹介。白井尼崎市長へ提出する予定の要望について言及した。



邊見公雄先生



松本強先生



高原周治先生



邊見先生の話に会場は引き込まれ笑いも起った

(2面につづく)

(1面のつづき)

松本先生は、救急病院の側から見た救急医療の現状を報告。尼崎市での救急搬送先の照会回数の全国比や収容所要時間の推移などを示し、「姫路や富田林と同じような事例が尼崎でもいつ起こってもおかしくない状況」にあると指摘した。勤務医の過酷な労働実態やコンビニ受診、訴訟での「トンデモ判決」などで瀕死の状態にある救急医療を、行政の介入で早急に立て直すべきだと訴えた。

県立塚口病院の近隣で開業する綿谷先生は、県立病院問題で塚口病院の必要性や地域住民による署名活動



綿谷茂樹先生

について報告。「だれもが安心して医療を受けられる尼崎」の実現を求めた。

討論では、会場から、県立塚口病院統合再編問題について「検討委員会の議事録では発言者の氏名を明確にすべき」「実際に統合再編されたら市民にどのくらいの影響が出るのか」といった怒りや不安の声が出されるなど、住民本位の医療行政の必要性が改めて浮き彫りとなった。



討論を行う様子

兵庫県保険医協会尼崎支部役員(敬称略・五十音順)09～10年度

- 【支部長】 八木 秀満
- 【副支部長】 綿谷 茂樹(筆頭) 大塚 誠治 大原 知樹
- 【支部幹事】 西原 弘道(主任) 朝田 真司 阿部 勝也 高 光重 鈴木 克司
高田 正(新) 立石 順 長谷川吉昭 畠中 正昭 藤岡 一郎
堀尾 俊治 本田 稔 前田 重人 増田 勉 町塚 博文
松田 哲一 山内 道士 山下 秀明 行松 信孝
- 【参 与】 合志 至誠 町塚 道夫 森本 和夫 横田 友二

兵庫県保険医協会役員(敬称略・五十音順)09～10年度

- 【副理事長】 八木 秀満
- 【理 事】 西原 弘道(新) 綿谷 茂樹
- 【評議員】 大塚 誠治 高田 正(新) 谷川 博信 長谷川吉昭 畠中 正昭
前田 重人 町塚 博文 山下 秀明
- (予 備) 高 光重 鈴木 克司 堀尾 俊治
- (歯 科) 阿部 勝也 伊沢 真一 黒田 哲 松田 哲一(新)

尼崎公害患者家族の会・第38回総会

きれいな空気残すため一層の運動を



ロードプライシング拡大など求める方針が採択された

尼崎大気汚染公害訴訟原告団の「尼崎公害患者・家族の会」は7月11日、尼崎総合文化センターで第38回総会を開催、患者や家族をはじめ、白井文尼崎市長など約160人が参加した。

協会からは森岡芳雄理事(環境・公害対策部長)が祝辞を送り、「貴会のこれまでの公害闘争を勝ち抜かれた運動とロードプライシングを始めとする環境汚染軽減への活動、尼崎再生、反戦平和の活動展開は、社会変革運動に関わるすべての者にとって良きお手本であり、希望」として、連帯を表明した。

松光子同会会長は「環境ロードプライシングが実施されたが、車種など限定的。ひきつづき、対象車種の拡大、バリアフリー化の早期実現を求めている」と決意を述べた。

同会の闘いは38年に及び、8年前の国・阪神高速道路公団との勝利的和解後、03年に「あっせん合意」を勝ち取った。さらに、和解条項であった国道43号線から大型車を湾岸線に誘導する「環境ロードプライシング」が今年度具体化されている。

震災復興住宅での健康教室

転ばない体づくりが大切

震災復興対策として取り組んでいる金楽寺住宅での健康教室を7月15日に開催。今回は支部幹事の大塚誠治先生が「骨折・転倒を予防するために」をテーマに講演し、入居者16人が参加した。

大塚先生は、高齢者の介護が必要になる原因の第3位が「骨折・転倒」であり、屋外だけでなく家庭内での事故も多いといったデータを、わかりやすくクイズ形式で紹介。脳卒中や痴呆のような重い病気にならない場合でも、転倒して骨折すると「寝たきり」になる可能性があることから、予防の大切さを訴えた。

参加者は杖の持ち方やストレッチの方法、体操の注意点など楽しく学んだ。



運動も「無理は禁物」と注意を呼びかけた